

# 五葉松の粒で免疫力が向上され 末期の卵巣・子宮体がんなど 女性のがんに有効

高橋弘憲 太陽クリニック院長

**独自の手法である  
「新鮮血観察」で  
患者さんの血液から  
健康状態を分析**

私は母校である自治医科大学の付属病院にある血液病棟のほか、地元の県立病院において、白血病などの治療を担当してきました。そのため、血液の状態と健康の関係について、強いこ

だわりを持っています。

二〇〇一年にクリニックを開いた後も、私は専門である血液学を、がんの患者さんを含む、さまざまな患者さんの治療に応用しています。

私が独自に行っている血液の分析法は、「新鮮血観察」というものです。これは、採血した患者さんの白血球や赤血球のよすを特殊な顕微鏡で観察する方法です。血液の状態から病気を引き起こしている原因を分析し、患者さんの治療に生かしています。

生きた血液は情報の宝庫です。採取した血液をそのまま顕微鏡で見ると新鮮血観察では、まだ生きて動いている赤血球や白血球だけでなく、血漿中に存在する糖分や脂肪滴、さまざまな老

廃物、真菌（カビ）までもが観察の対象になります。

新鮮血観察は、患者さん自身が顕微鏡に映った自分の血液の状態を見ることができると、大変わかりやすいのが特徴です。

新鮮血観察で病気の診断を確定することはできませんが、その人の体質が健康なのか、あるいは病気に向かっているのかが、よくわかります。いまの生活のどこに問題があり、どのように変えればいいのかを、血液が教えてくれるのです。

そのような独自の手法を使っている私が、一〇年ほ

ど前から注目しているのが、五葉松の粒です。

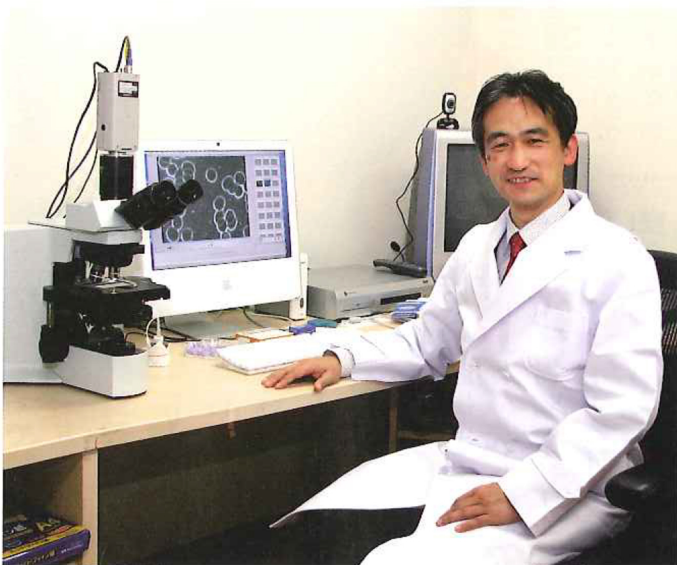
五葉松はいまから三〇年以上も前から研究が行われている健康食品で、昭和大学をはじめ、日本を代表する大学や研究機関で数々の研究結果が発表されています。

五葉松の松笠（松ぼっくり）の種子には、二つの有益な成分が含まれています。

まず一つめは、種子の殻に含まれている「リグニン配糖体」です。強力なポリフェノール的一种であるリグニンポリフェノールに多糖類が結びついたリグ



高橋医師が院長を務める宮崎県延岡市の太陽クリニック



長年、血液学を専門にしている高橋医師は、「新鮮血観察」という独自の手法を患者さんの治療に応用している



五葉松の種子の殻(写真は粉末)に含まれるリグニン配糖体には抗がん作用があることが、大学の研究によって確かめられている

ニン配糖体には、免疫力向上作用や抗がん作用、抗ウイルス作用があることが確かめられています。

二つめは、種子の殻の中にある実に含まれている「ピノレン酸」という脂肪酸です。ピノレン酸は、自然界の植物では松の実にしか含まれていない貴重な成分で、過剰な中性脂肪やコレステロールを正常化するなど、血液の浄化に役立つといわれています。

殻と実に含まれる二つの有効成分を凝縮した五葉松の粒は、私自身が長く飲みつづけており、

健康の増進に役立つと感じています。

## 手術ができないほどの巨大な子宮体がんが五葉松の粒を飲んだら手術が可能になった

さらに私のクリニックでは、がんの患者さんが五葉松の粒を飲むことで、大きな成果を上げているのです。来院されたがんの患者さんのうち、特に印象的な方の例をご紹介します。

●末期の卵巣がんの治療効果が高まり、体調が回復したAさん(七十代)

Aさんはいまから五年前に、末期の卵巣がんと診断されました。大腸への転移も確認されたAさんは余命わずかと診断され、抗がん剤による治療を受けていました。

私は旧知の仲だったAさんに、五葉松の粒をすすめました。五葉松の粒を毎日九粒ずつ飲みはじめたAさんは、げっそりとやつれてきた顔が、明らかに

らかに体調の改善が見られるようになりました。

その後、体を動かすのがらくになったというAさんは、家事ができるようになったと喜んでいました。五葉松の粒を飲みはじめてから、カゼを引かないようになるなど、免疫力の向上を実感しているそうです。

●手術が不可能といわれた末期の子宮体がんが手術で摘出できたBさん(四十代)

末期の子宮体がんと診断されたBさんは、大腸や周辺のリンパ節にもがんが転移し、手術は不可能といわれていました。

Bさんは、ほかの病院で撮影した子宮の画像を持って、私のクリニックに来院。画像に映っていたBさんのがんは、ハンドポールほどもある、非常に大きなものでした。がんの摘出は明らかに不可能な状態で、余命はわずかと考えられました。

Bさんは、ほかの病院で抗がん剤による治療を受けることが決まっていました。私はBさんの免疫力を強化して治療効果を高めるため、五葉松の粒を飲むことをすすめました。

五葉松の粒を一日五粒ずつ飲

みはじめたBさんは、抗がん剤による治療を受けても副作用が軽くすんだと喜んでいました。

何よりも驚いたのは、子宮体がんが巨大なだけでなく、周囲に浸潤して手術不可能だった状態から、手術が可能になって元気を取り戻したことです。

その後、Bさんは転移したが、がんが取り切れなかったことや、家庭の事情による過剰なストレスによって、手術から三年後に亡くなられました。それでも、余命わずかと思われたBさんが三年以上も元気で過ごすことができたのは、五葉松の粒の力が大きかったと考えています。

AさんやBさんのように、五葉松の粒を飲んで女性特有のがんに効果が見られた患者さんは、ほかにも多くいらっしゃいます。



たかはし・ひろのり

1958年、宮崎県生まれ。1983年、自治医科大学卒業後、県立病院や僻地勤務などを経て、自治医科大学血液学教室、宮崎県立延岡病院に勤務。2001年、宮崎県延岡市に太陽クリニックを開院。幅広い臨床経験と「新鮮血観察」にもとづく独自の医療活動を展開。内科専門医、血液専門医。主な著書に『カラー版・血液が語る真実』(論創社)、『「強運なからだ」をつくる生き方』(総合合法令出版)など。